

今月号の ■THInet 主催「第4回コース制半日研修会」のご報告

トピックス ■著書のご紹介

本号では、THInet 主催「第4回コース制半日研修会(公式インストラクター認定講習会受講条件の一つ)」のご報告をさせていただきます。また、GIGA スクール構想推進の隠された意図について考えたいと思い2冊の著書をご紹介します。



「第4回コース制半日研修会」のご報告

初めての試みとして、昨年までの一日研修会を、半日のコース制として平日、土日のそれぞれ3日間で開催しました。

一日を通して画面を見ていると、とても疲れることや、目への影響なども考えての実施でした。Zoomを使用する研修は一方的になりがちですが、休憩やグループ活動をこまめに取り入れることで能動的に参加していただけたのではないかと思います。

また、参加者は少な目でしたが、グループの人数が抑えられ交流が深まったようです。

今回は、認定講習会の受講条件のための1日に数えられるということもあり、各分野とも基本的なことをわかりやすく、という趣旨で教材をまとめました。もちろん、新しいデータが出たものは差し替えし、スライドも作り直したのものもあります。

参加者の方からは、遠方なのでZoomで良かった・3日間に分けることで、余裕をもって学べた・異業種の人と、それぞれの立場での意見を聞く事で視野が広がった・同じ立場の人との交流で共感できた・など、主にグループ活動に対するご意見が多く寄せられました。

また、各分野では、提供したスライドに対する様々な、また熱心なご意見も大変多く、私たちの勉強になり、大変感謝をしております。これからも、皆さんと一緒に勉強していきたいと思っております。

今回受講された皆様も、是非1月の認定講習会をご受講いただき、認定インストラクターを目指してください。そして、一人でも多くの人(主に子どもたち)にメディアの長時間使用による健康被害があることを知ってもらうための「燈火」となり、私達と一緒に啓発活動を行っていきましょう!(実行委員長 伊藤理恵)

著書紹介

「第4次産業革命と教育の未来」

佐藤 学 著 岩波書店

-要旨(はじめにより)抜粋-

第四次産業革命において教育が舞台の一つになっていることに留意する必要があります。「未来の教育=ICT」という考えが常識になりつつあります。なぜ、このような「ICT教育の神話」が生み出されているのでしょうか。この「神話」は何を物語っているのでしょうか。さらに、ICT教育が教育の未来に資するとすれば、どのようなICT教育がそれを可能にするのでしょうか。本書は、この重要なテーマを中心に論じたいと思います

-目次-

1 第四次産業革命による社会の変化、2 新型コロナ・パンデミックとICT教育、3 巨大化するグローバル教育市場、4 「人材=人的資本」の変化、5 ICT教育の現在と未来、6 学びのイノベーションへ、7 改革の展望

「デジタル・ファシズム -日本の資産と主権が消える」

堤 未果 著 NHK 出版

-要旨(「BOOK」データベースより)抜粋-

「日本デジタル化計画」驚きの裏側！
コロナ禍の裏で、デジタル改革という名のもとに恐るべき「売国ビジネス」が進んでいるのをご存じだろうか？
アマゾン、グーグル、ファーウェイをはじめ米中巨大テック資本が、行政、金融、教育という、日本の“心臓部”を狙っている。デジタル庁、スーパーシティ、キャッシュレス化、オンライン教育、マイナンバー……そこから浮かび上がるのは、日本が丸ごと外資に支配されるXデーが、刻々と近づいている現実だ。

-目次(「BOOK」データベースより)-

第1部 政府が狙われる(最高権力と利権の館「デジタル庁」;「スーパーシティ」の主権は誰に?;デジタル政府に必要なたった一つのこと)
第2部 マネーが狙われる(本当は怖いスマホ決済;熾烈なデジタルマネー戦争;お金の主権を手放すな)
第3部 教育が狙われる(グーグルが教室に来る! ? ;オンライン教育というドル箱;教科書のない学校)